

# 堀川でもっとも古くからある橋

## 中橋

五条橋と伝馬橋の間にある橋が中橋だ。

橋の東岸の南側には、共同物揚場が残っている。物揚場を下りると「伊勢湾台風潮位 昭和34年9月26日」と書かれた標識が掲げられているのが見える。あと、数十センチ水かさが増したならば、堀川から水があふれたことを、この水位を示す標識から知ることができる。名古屋市内で死者1851人、行方不明58人という未曾有の惨事が、この標識を見るとまざまざとよみがえってくる。



橋台は石積みで造られ、橋の鉄骨はリベットで留められている。橋梁に半球状のでっぱりが並んでいる。これがリベットの頭だ。リベットとは、この饅頭のような頭部をもつ**びょう**のことだ。現在では鉄骨を接合するのに、溶接やボルト締めが多いが、昭和30年代までは、リベットを使って鉄骨の組み立てをした。職人技の結晶ともいうべき工法だ。

堀川に架かる橋は、何度も架け替えられてきた。数多くの橋のうち、もっとも古くからある橋が中橋だ。大正6年(1917)に架けられ100年を迎える中橋は、大正期の土木技術を今に伝える貴重な橋である。

今は、ひっそりと静かなたたずまいの中橋であるが、江戸時代には、多くの人々がこの橋を渡り、高田本坊(真宗高田派愛知別院)に参詣した。高田本坊で御開帳ともなると、その賑わいは凄まじいものとなった。

文化6年(1809)8月10日、下野国高田山専修寺一光三尊仏を迎えた時の賑わいを高力猿猴庵は、その日記に詳細に記している。

堀川の川岸には茶屋、楊弓店などの見世物小屋が立ち並んだ。竜宮城の玉取り姫のからくり、オウムやインコという珍しい鳥、雷獣という獣などもみせた。エレキテルも見世物小屋に並んだ。なかには鬼女という口の裂けた耳の長い、いかがわしいインチキの見世物もあった。

この賑わいにまぎれて、とんでもない事件が起きた。瘤を財布とまちがえて、掏摸が切ってしまったのだ。猿猴庵日記は、次のように記している。

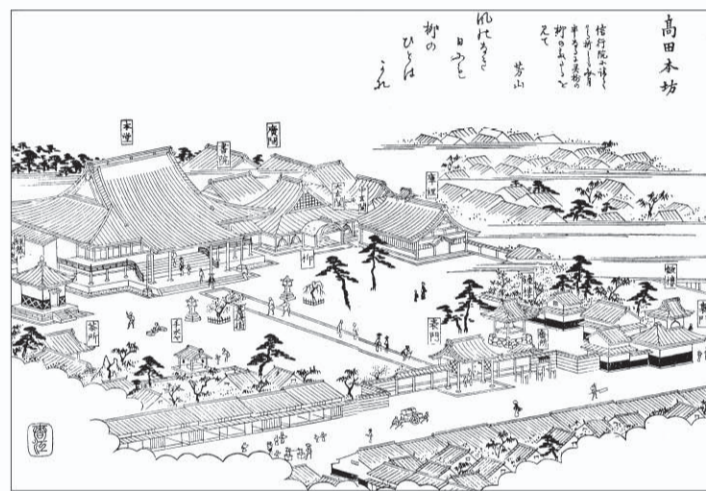
この賑わいの中に、すりが多勢まぎれこんでいた。財布、煙草入れなどをすり取られた者が多い。田舎から参詣に来た人がいた。その人は、腰に大きな瘤があった。すりは、この瘤を着物の上からまさぐって、財布を腰にはさんでいるのだと勘がいをした。瘤を刃物で、サッと切った。瘤を切られた男はハッと目回してしまった。血だらけになった男を見て大騒動となった。



今日の中橋

あまりの人込みのため目を回した人が出た。寺の人が水桶を持って行くが、堂内は暗くてどこに倒れているのか分からない。声のしたあたりを狙って水をかけたら、着飾った女中に掛かり濡れ鼠になってしまった。

高田本坊や中橋の現在のたたずまいから、江戸時代のこの賑わいを想像することはできない。



高田本坊(尾張名所図会)



中橋裏浅間社(尾張名所図会:鶴舞中央図書館蔵)



中橋(尾張名陽図会:鶴舞中央図書館蔵)